

様式第2号（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回川島町総合振興計画審議会	
開 催 日 時	平27年9月11日（金）午後2時から3時50分	
開 催 場 所	川島町民会館 1階 研修室	
議 題	<p>(1) 人口ビジョン及び川島町まち・ひと・しごと創生総合戦略について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5次川島町総合振興計画及び地方創生のための町民アンケートの中間報告について ・川島町人口ビジョン骨子（案）について ・まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について <p>(2) 今後のスケジュールについて</p>	
公開・非公開の別	公 開（傍聴者2名） ・ 非公開 ・ 一部非公開	
非公開の理由 (非公開の場合のみ)		
出席者	委 員	五島委員、関委員、南間委員、今井委員、大野美委員、小島委員、清水委員、西川委員、西村委員、松上委員、矢内委員、野原委員、宮崎委員
	事務局職員	政策推進課 石島課長、内野主幹、伊原主査、品川主事
配 布 資 料	会議次第、資料1～3	
審議会等の内容・概要		
<p>1. 開 会</p> <p>（事務局より会議の開会にあたり、川島町審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき、会議は原則公開であることを説明する。なお、会議録を公開するが、発言委員名は記載しない旨で委員より了承を得る。）</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 議 事</p> <p>会 長：議事に入る前に、議事録署名委員を指名する。五島委員と矢内委員にお願い</p>		

する。

(1) 川島町総合振興計画及び川島町まち・ひと・しごと創生総合戦略について

・第5次川島町総合振興計画及び地方創生のための町民アンケートの中間報告について

(事務局にて、資料1を用いて説明)

意見、質問なし

・人口ビジョン(案)について

(事務局にて、資料2を用いて説明)

会 長：事務局から人口ビジョン骨子(案)について説明があった。川島町の現状は、自然減と社会減となっており、現状出生率が0.8であるが、将来的に2.07にしていき、なるべく社会減も押さえていくとの説明であった。現状0.8から2.07では、ハードルが高いようにも感じるが、町民アンケートでは、希望出生率が2.5程度あるので、雲をつかむような話でもないと感じる。委員の方々のご意見、質問等を伺いたい。

委 員：人口動向について質問するが、平成19年から20年にかけて、川島インターチェンジの開通と周辺の産業団地の整備により、転入が増加したとあるが、平成23年から24年にかけても、転出も増えているが、転入も増えている。この要因は何かあるのか。

事務局：特にこれといった理由は捉え切れていないが、産業団地については、一度に出来たのではなく、段階的に造成してきたので、その部分が反映されたのではないかと考える。

委 員：産業団地内にある当社の社員で、町内に住んでいる社員はおらず、近隣の工場に聞いても、町内に移り住んだ人はいないと聞いている。産業団地が出来たからといって、人が移り住むとは限らないと思う。人口を増やすには、住まいが必要で、川島町には家を建てる場所がないのが現状である。そのまま放っておいたら、人口は増えない。昔ながらの農業政策等が絡んでいるようだが、新たな土地利用開発ができる状態にしていかないと、人口は増えないのではないか。今後都心はますます人口が増え、地方は過疎化が進むと考えられる。都心から45km圏内の川島町は、人口が大きく減っていくのかまたは増えるのかは、今後の町民の考え方次第と感じる。

会 長：まち・ひと・しごと創生については、いくつかの自治体で関わっており、どの自治体も同じように悩んでいる。山奥で村であっても人口が増えているところもある。立地条件によるところが大きく、明暗が分かれる。山奥で人口が増えている村というのは、近所に工場がたくさんあり、環境もよく、暮らしたいと考えるようで、宅地を造成するとすぐ埋まり、社会増だけでなく、子どもも増えているようである。いかに町の強みを出していけるかが、総合戦略では重要になってくる。町では、人口ビジョンを2045年に2.07の出生率と考えているようだが、委員の皆様のご意見をいただきたい。

委 員：町として、人を増やす住居系、つまり市街化区域の拡大となるが、そういったことは、計画の中に盛り込むことができるのか伺いたい。

事務局：住居系を考えているかについてですが、今回の総合戦略については、今年度を含めて5年間の計画であり、難しいものとなっている。川島インターチェンジ南側地区の開発を進めているが、実際に動き出すのは5年より先となる予定である。インターチェンジ周辺の開発については、国、県の考えもあるため、そこが住居系になるかどうかは調整が必要である。現在は物流・工業系の指定である。町としては、人口増加の目的があるので、市街化調整区域を含めて、住居系についても調整していきたい。

委 員：川島町は産業団地で元気になっている。自然増には限界があり、家が建つ地域の拡大について、町としても考えてもらいたい。

会 長：自然増については、すぐに効果が出ない。短期的な効果としては社会増をどの市町村もねらってくる。人口の取り合いが各地で起きるのは想像に難くない。いかに安売りしないで、魅力的な町か、人を呼び込めるかが大事となってくる。

・まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

（事務局にて、資料3を用いて、基本目標ごとに説明）

会 長：基本目標1では、かなり施策の数としては、つみあがっていると感じる。委員の皆様からご意見をいただきたい。

委 員：子育ては時間がかかるので、集中的に必要なもののみやったほうがよいのではないか。

会 長：今までの施策をやっているが、出生率は0.8で、県内でも最低水準であるこ

とから、上乘せや新規の取り組みを行うということは、理解が出来る。

委員：子育てだけやっても、人口は増えない。トータルでの取り組みが必要。先ほどでもあがったが、市街化区域が増えなければ、住宅は増えない。住宅増えなければ、若い転入者は増えない。町だけで出来ないのは分ってはいるが、町が積極的にその気にならないと国や県も動かないのではないか。娘は文京区に住んでいるが、2人子どもがおり、パートに出ることがある。800~900円のパート代だが、文京区で子どもを預けると1時間700円かかる。全然子育て支援になっていない。子どもを産んで育てにくいと感じる。三位一体で、子育て、働く所、住環境とトータルで見えていかないと、1個ずつでは何も解決しないのではないか。この町をどうするかについては、しがらみとか抜きにして考えていく必要があるのではないか。

委員：アンケートの結果をみても、働き口、就業の場所を考えると、交通の利便性は大きいと思う。交通の便がよいのは若い人にとって魅力的であり、高齢者にとっても大事である。通いながらも住んでもらうためには、三世代家庭でも学童に預ける人も多いので、子どもを産んでも預ける場所があるというのが大事となってくる。川島町なら必ず預ける場所があるというようになればよいのではないか。

会長：基本目標2では、雇用創出のために企業誘致をして、農業を活性化していくということである。農業に力点をおいた計画と感じるが、委員の皆様からのご意見をいただきたい。

委員：いちごを始めて5年目だが、農業は出るくいは打たれるというか、新規参入しにくい、多少やりにくい気がする。自分は行政からバックアップをしてもらっての新規参入ではあり、行政には感謝している。

会長：商店街や農業は似ているところがあるが、どちらも一子相伝であるので、子どもが継がないと廃れてしまう。営農したい方はいるのだが、新規参入がしにくいのが、川島町に限らず全国的な問題である。新規参入者をいかに受け入れて、地元で根ざしていただくかがかなり重要である。

委員：農業は食料としての農産物を生産するのが基本だと思う。一人の農業従事者がどのくらいの収穫量を上げていかななくてはいけないのかを考えると、日本は諸外国と比べると家庭菜園レベルにあるのではと思う。専業が少なくて兼

業が多いというのもある。新規参入がやりにくいし、国際的にも難しくなっているのが日本の農業である。出るくいが打たれるとの話があったが、打たれないでのびのびとやれたら、もっと生産効率が上がるし、消費者に喜ばれると思う。今までどおりのやり方だと、消費者から支持されなくなる可能性もあるのではないかと思っている。

会 長：そういう点では、総合戦略のメニュー自体は、農地を集積し、新規就農者を増やして、暮らせるところを提供するようになっており、出来る範囲の施策は整っており、あとは実施の段階と感じる。

会 長：基本目標3はかなりバラエティーに富んだところだと思う。いろいろな角度や立場から意見をいただきたい。

委 員：新たな公共交通とあるが、前回の町バスと同じようなものか。この地域からターミナルを結ぶようなものが必要だと思うが、前は町内のみの巡回であったので、利用者が少なかったのではないか。別の会議での審議とのことだが、新たな公共交通は利用者が利便性のあるものでないと、利用者がおらず、無駄になってしまうのではないか。

事務局：現状決まった公共交通システムがあるかということ、今はまだ、検討中の段階である。おっしゃるとおり、町バスのテスト運行については、利用人数が伸び悩み、費用対効果を考えて終了となった経緯がある。その結果を踏まえて、今検討しているところである。駅へ行って欲しいとの意見や今回のアンケートの結果を踏まえて、現在研究を進めているところであるが、前回の町バスと同じような結果とならないよう地域公共共通会議で検討していく。

会 長：自分が家を買った時に注目にしたのが、一番が交通の利便性、次は子どもの教育で、学区内に荒れている学校がないかや学校までの通学ルートであり、3つ目は治安であった。交通と安全は、家を購入する時に気を使う点であると考えてるので、そういう点でもここはしっかりやったほうがよいと思う。

委 員：駅と駅、ターミナルとターミナルを結ぶ公共交通は大切だが、私の友達も夜9時を過ぎると帰宅難民となっている状態なので、それ以降の時間についても考慮していただきたいのが1つと、私の知り合いで子どもを持つ母がいるのだが、健診等受けるので埼玉医大や清水こどもクリニック等の病院を回って欲しいとの意見があった。町内の病院や町役場などを回るようなものであ

れば、もう少し利用人数が伸びるのではないかと思います。

委員：文京区のコミュニティバスは1回100円ですが、利用率が高い。この町の地元のレストランは宴会送迎用のマイクロバスをお持ちで、普段は駐車場に停まっているので、もったいないと思う。地元のタクシー会社とうまく組めば、稼働率があがってよいのではないか。地方ではお年寄りへのタクシー券などがあり、1つではなく、複合的にやるとメリットが出てうまくいくのではないか。

会長：基本目標4について、委員の皆様からご意見いただきたい。

委員：5～6年では無理だとは思いますが、参考としてシンガポールの観光都市構想の企業の展示や会議の開催するMICEを提案する。前回他の委員より、土地的に安全性が高いので、企業の情報関連のものをおいたほうがよいとの考えがあり、このことから、川島町は都心に近いので、最適なのではと考える。他の自治体と同じようなことをやるのではなく、秀でて違うようなところを射抜くものやっつけていかないと考えるので、ビジネスを中心とした観光を提案する。

委員：サイクリストに注目することはすごくよいと思う。サイクリストがこの町にいっぱい入ってくるのは、一つの観光資源である。サイクリストが喜ぶよう、1つ1つのところで工夫すれば、町は変わるのではないか。サイクリストウェルカムで、町内で商売をしている一軒一軒が取り組み、町は、皆さんがんばってお互いやりましょうという方向で、モチベーションをつけるのがよいと思う。川島町は、東京からサイクリングで来られる距離にある。川島町は、震災のリスクも少なく心配がないので、まちづくりの方向として考えてもよいのではないか。


委員：学校ではこの時期は、社会科見学の時期なのだが、パン工場やしょうゆ工場などの社会科見学や、広徳寺大御堂は歴史の好きな人にとっては大変重要なポイントになると思うので、歴史のスポットを結ぶコースを考えたかどうか。小学生向けには体験コースを考えると川島町のアピールに繋がるのではないか。

会長：今後ご意見があれば、事務局のほうへご意見を寄せていただきたい。

(2) 今後のスケジュールについて

事務局：次回については、10月20日前後で開催を検討している。正式な日程の決定後、各委員へ通知する。

7. 閉会

署名	矢内 大介	
	五島 アツ子	